



水面に浮かぶ清らかな花

睡蓮

睡蓮は、池や沼など静かな水面に浮かぶように咲く水生植物です。丸い葉には一カ所だけ切れ込みがあり、水面に広がって光を受け止めます。花は白やピンク、黄色など色とりどりで、朝に開き夕方閉じる性質があり、その様子が眠りにつくように見えることから「睡蓮」という名が付いたとされています。

世界中の温帯から熱帯にかけて多くの種類があり、日本ではヒツジグサという在来種が知られています。清らかな印象

から「清純な心」「信頼」といった花言葉を持ち、絵画や庭園のモチーフとしても親しまれています。

関西では龍安寺（京都市右京区）の鏡容池の睡蓮がよく知られています。また、万博記念公園（大阪府吹田市）日本庭園のはす池や、京都府立植物園（京都市左京区）なども名所として親しまれています。池泉庭園の水面に浮かぶ花と、周囲の緑や伽藍が溶け合う風景を楽しんでください。

6/1	月	気象記念日 衣替え
4	木	歯と口の健康週間（～10日）
5	金	環境の日 大安
6	土	芒種
10	水	時の記念日
11	木	入梅 大安
15	月	信用金庫の日 大安
21	日	父の日 夏至 大安
27	土	大安
30	火	夏越しの祓
7/1	水	全国安全週間（～7日）
2	木	半夏生
3	金	大安
7	火	七夕 小暑
9	木	大安

6月 シティ信金行事予定

- シティ信金写経会
8日 午前9時から 奈良西ノ京 薬師寺にて
- 大阪府内信用金庫合同
ビジネスマッチングフェア2026
9、10日 午前10時から
マイドームおおさか3階展示場にて
- シティレディースクラブ「令和8年度総会」
11日 午前11時から
帝国ホテル大阪にて
講師：俳優・気象予報士 石原 良純 氏
- 「信用金庫の日」の活動
15日
〈清掃活動〉早朝から全店で
〈献血活動〉午前10時から 京橋駅前広場にて
- 第100期通常総代会
18日 午後2時から
本店2階大ホールにて
- 地元への奉仕活動（清掃）
全店舗で実施



Monthly essay



めし

天

「大阪ならどんな小さなことでも知っている」著者が、どんな行事風物を選んでいくか興味があったからだ。『イチ推し』は住吉大社「おん田の神事」（6月14日）だった。

「なんとといっても、この田舞と田植の見事さにある。おりから六月の薫風の中に、もすそをひるがえし、うっすらと汗ばみながら舞う八乙女のおでやかさにある」。丹念に描かれた神事を要約すればここに尽きる。著者、明治末曾根崎生まれの劇作家を魅了したのは、祈りに没入する美しい姿だった。

干ばつ、豪雨、冷夏、害虫、大風……大自然を前に人が出ることは「見事に」「あでやかに」「舞い、神々に気づいてもらうこと（しかなかった）。自然への畏れを忘れさせないソフトウ

エアが「おん田」であり、千年単位で続いてきたのは、神も人も魅了する「見事さ」「あでやかさ」にあったのではないか。その敬虔さが、「八十八」とも「百三十五」ともいわれる手間を惜しまない稲作を生んだ――。

あれこれ勝手に考えていると、「放浪記」で知られる林芙美子の随筆「大阪紀行」の一節が浮かんだ。千日前の寿司屋でパツテラを買った際、一折では食べきれないので、ほんの少しほしいといってみた話である。「その店では、気持ちよく売ってくれた。東京の商人のような、官僚的な気取りは少しもない」それだけのエピソードだが、幼いころから辛酸をなめ尽くした人間にこの厚意がどれだけ刺さったか、行間から溢れ出る。迷うことなく寿司を小分けした所作の見事さ、あでやかさ。「おん田の神事」と重なった。芙美子はその後、小説「めし」

を朝日新聞で連載した。開始前に書いている。「私は、日本人の生活に、めし以外に論じる重要な食物が、他にあるとは考えられません」「たぎたての、御飯のような、ふつくらし小説を、きどりのない人達にあてて、のんびりと私は書きたいのです」

小説は大阪駅を出発した市内遊覧バスから始まる。東京から来た22歳の女性と大阪に住む伯父。話は意外な方向に展開していくが、芙美子は連載開始3ヵ月後の1951年6月29日、東京都内の自宅で心臓麻痺に見舞われる。享年48歳。

未完で終わった「たぎたての御飯のような小説」がどんなものであったか、知る術もないのが口惜しい。が、75年後の今も、「めし」の大事さはまったく変わらない。

おん田の神事は14日午後1時から。自然の前の人間の無力さも変わらない。

（わ）